

謂之あふる。粗人なりと穢るぞうと。洞静お教由五日吉の條段
 單整ふ。斯謂洞の所悪く。以後のうさぬて謂まじ。記がふお余こ
 懐ふ及言つるのよと。微笑法。礼舒緩けく。遠舎を立い。て
 湯の昏る天み郎。他が住居へ内りて休らうと。斯お江州大
 上郡。多賀の神社の供僧ある。觀音院。明光房といひる
 有り。關東の國へ祀れせんとて。遠中村お集つる。駒俱お休ら
 る僕が。時疾は疾。後又達ね。當代の奴雇。借と付るより。を
 五郎作。所着。這俱せんやと。日吉又。訊一議お及つ。唯くと。結
 ひ。その日の中に。旅お装ふ。明光房お役せられ。東國へと。そやりられ

繪本豊臣勲功記卷之一了